

戦略策定委員会レポート（1）

戦略策定委員会委員長 山本竜司

1. 戦略策定委員会の役割

当委員会の目的は、都民の会の目指すゴールである「平成維新の実現」をはたす為のフェーズ（段階、ステップ）を明らかにするとともに、各フェーズにおける無理の無い評価基準を示すことで、各活動に参加する人々の士気を高め、各会員や委員会の活動がシナジー効果を発揮しやすいようにすることを目的とします。

一つのゴールにたどり着く道筋（戦略）は決して一つではありません。従って当委員会では、複数の戦略案を策定し、運営委員会等を通じて会員の方々に提示します。当委員会は、あくまでも会の参謀役に徹し、決定権を持つものではありません。また、運営委員会等で戦略が採用された後は、運営委員会をはじめとした各委員会へ、戦略的見地からアドバイスをを行い、必要であればサポートする機能をはたします。従って、戦略を策定することが当委員会の最終目的ではなく、会が採用した戦略が十分に機能して最終ゴールに達することを目的とします。

2. 戦略の考え方

日本人は「戦略」という言葉が大好きの様ですが、誤解しているケースもよく見かけます。そこで、この場を借りて、戦略の簡単な定義とその考え方をご紹介します。

まず、戦略(strategy)、作戦(operations)、戦術(tactics)の3つがあります。

戦略とは、ゴールに達する為の道筋とそれぞれのフェーズの設定、および各フェーズにおける資源配分を行うことを言います。この会においては、まさにこれから策定すべき内容です。

作戦とは、戦略における各フェーズの達成条件を実現するため企画された一連の行動のことです。この会においては「企画」と呼ばれているもので、「住専処理に反対する集会」、会員の懇親を目的にした「1日の会」、会員拡大のために行われている「駅頭でのピラまき」などがそれにあたります。

戦術とは、各作戦あるいは企画を成功させる為に行われる諸々のテクニックやノウハウのことです。ピラはどのように作ると効果的か、人集めの為の効果的な周知方法、より多くの通行人にピラを受け取ってもらえる配り方などがそれにあたります。

3. 都民の会が取りうる戦略

今回与えられたスペースでは、戦略の全てを語るには充分ではありませんので、今回は、戦略的な道筋について言及します。もちろんこれで全てとは言いませんが、会員の方が議論し戦略について考えて頂くのに最も適した2つの案をご紹介します。

- a. 「都民の会が主体となって社会を変革していく」
- b. 「都民の会が社会変革のための環境を整えていく母体となる」

いづれの場合も、その目指すゴールは平成維新の実現であることは、言うまでもありません。

- a. 「都民の会が主体となって社会を変革していく」（主体となる場合）

主体になるとは、この会が積極的に社会をリードし、会の名の下に平成維新を実現させ、「平成維新の実現は都民の会がはたした」と自他ともに認められることです。

この戦略での最終フェーズは、「会が政権を担い平成維新を実現させる」ということになります。政権の対象は、地方自治体と国政とがありますが、その両方において政権を担う必要があると思われます。

その最終フェーズの一つ前のフェーズは、「会を政党化させる」ことになります。現在の社会制度の下では、政権を取れるのは政党しか有り得ないからです。そして、それに伴い必要となるのが「選挙における候補者の擁立」です。

その方法も、「独自に候補者を養成する」とことと「既存の政治家に入党を促す」ことの2つがあります。特に後者の場合には、政党としての資金と集票の魅力を示す必要があります。高邁な政策だけでは、政党は成り立ちません。そのため、政党化する場合には、「バックアップしてくれる資産家や企業を探す、あるいは共産党などのように資金が収集できるシステムを確立する」とことと「票を集める為に会員数を増やす」ことは不可欠な要素になります。

- b. 「都民の会が社会変革のための環境を整えていく母体となる」（母体となる場合）

この戦略案は、「社会変革をはたす為に必要なパワーは、必ずしも政治的パワーだけではない」という認識からスタートします。

例えば、明治維新の時に坂本竜馬が率いた亀山社中は商社兼海運業でしたし、長州藩の志士達の京都での活動費（主に酒代と芸者代）は住友と鴻ノ池が